

久留米大学を受診した患者さんへ

「バンコマイシン低感受性黄色ブドウ球菌(VISA)感染症アウトブレイクにおける分子疫学的検討」の研究に使用する試料について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料を使用します。

- 1) 期間：2013年10月1日から2013年12月31日
 - 2) 受診科：高度救命救急センター
 - 3) 対象疾患名：VISAの検出された患者
 - 4) 使用する試料：(喀痰、皮膚等の細菌検査)
-

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

**研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。
ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。**

- 1) 研究組織：所属：感染制御部
研究代表者：教授 渡邊 浩
研究分担者：副主任薬剤師 酒井義朗
助教 秦 亮

2) 研究の意義と目的：

2013年1月から2013年10月までに検出されたVISAに対して、分子疫学的手法としてパルスフィールドゲル電気泳動(pulsed-field gel electrophoresis、PFGE)を用いて水平伝播の有無について検討を行うことを目的に検討を行います。

3) 研究の方法：

2013年1月から当院救命救急センター入院患者から検出されたVISAに対して、PFGE解析を行います。これによって細菌どうしが同じ泳動パターンを示した場合は、それらの遺伝子に違いが認められなかったことになり、由来が同じである(疫学的に関連する)可能性が高いことを示します。この方法を実施することによって、菌株の水平伝播経路を確認します。

4) 研究期間：

平成26年9月倫理委員会承認後～平成27年12月31日

5) 上記の試料(資料)の使用を選定した理由:

日本ではほとんど認めていないVISAによる感染事例を経験しましたので、その水平伝播を確認することが重要となり、本研究を実施します。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について:

本研究実施に際し久留米大学医療に関する倫理委員会の承認を得ます。

ヘルシンキ宣言を遵守し、プライバシー等の個人の人権が侵害されないように行います。

本研究で取り扱うのは入院患者より分離されたVISAが主体である。菌が分離された個人の情報として必要なものは、分離された部位、分離された日、感染症か定着かなどであり、性別、年齢、基礎疾患などは必要としません。

7) 研究成果の発表の方法:

成果は感染症関連の学会で発表し、かつ学術雑誌へ投稿します。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先:

渡邊 浩(感染制御学講座 教授)

〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67

(TEL) 0942-35-3311

(FAX) 0942-31-7826

研究番号 14121